

令和6年度第1回木津川市介護保険事業計画等策定委員会 会議経過要旨

会 議 名	令和6年度 第1回木津川市介護保険事業計画等策定委員会		
日 時	令和7年1月17日（金） 午後1時30分～午後2時30分	場 所	木津川市役所4階 会議室4－3・4－4
出 席 者	委 員 ■：出席 □：欠席	■安藤会長 ■馬副会長 ■中森副会長 □光井委員 ■山本委員 ■井上委員 ■鴛田委員 ■石塚委員 ■辰巳委員 ■岩本委員 ■松森委員 ■坊委員 ■武田委員 □甲川委員 ■高津委員 ■辻委員 ■新井委員 ■入江委員 ■坂本委員 ■田中委員 ■金森委員	
	事 務 局	山本健康福祉部長、竹村高齢介護課長、 福田高齢介護課主幹、辻高齢介護課長補佐、 森川介護保険係長、岡田主任、中畑主任、吉田主任	
傍 聴 者	なし		
報 告	（1）第9次高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画の実績について （2）第9次高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画における基本目標ごとの取組について （3）第10次高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画の進捗状況について		
会 議 結 果 要 旨	1 開会 開会宣言 委員19名の出席により、会議が成立していることを確認した。 2 健康福祉部長あいさつ 3 自己紹介 委員委嘱後、初回の委員会であり、委員・事務局より自己紹介を行った。 4 会長・副会長選出 会長、副会長の選出は事務局に一任いただくこととなり、会長に安藤委員、副会長に馬委員、中森委員の就任を提案し、出席委員全員の拍手をもって承認いただいた。 5 会長あいさつ 6 報告 安藤会長が議長となり、議事を進行した。		

	<p>(1) 第9次高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画の実績について</p> <p>(2) 第9次高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画における基本目標ごとの取組について</p> <p>(3) 第10次高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画の進捗状況について事務局より資料1～3により説明した。</p> <p>7 その他 次回委員会は、令和7年7月頃を予定とし、あらためて日程調整を行う。 令和7年度は2回、令和8年度は6回程度開催予定である。</p> <p>8 閉会</p>
<p>会議経過要旨</p> <p>○：委員 ⇒：事務局</p>	<p>1 開会 会議結果要旨のとおり。</p> <p>2 健康福祉部長あいさつ</p> <p>3 自己紹介</p> <p>4 会長・副会長選出 会議結果要旨のとおり。</p> <p>5 会長あいさつ</p> <p>6 報告 (1) 第9次高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画の実績について (資料1) (2) 第9次高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画における基本目標ごとの取組について (資料2) (3) 第10次高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画の進捗状況について (資料3)</p> <p>【説明】 資料に基づき説明した。</p> <p>【主な質疑・応答、意見】 ○資料2 P.5 基本目標2 (2) ①認知症に対する理解の促進 京都府の認知症基本計画策定の進捗はいかがか。 ⇒国計画が策定されたばかりであり、今後、府基本計画が策定されれば、事業計画と連動して策定する。スケジュールは、次期事業計画と併せる予定である。</p>

	<p>○資料 2 P.4 基本目標 2 (1) ③福祉サービスの提供</p> <p>在宅高齢者等配食サービス事業について、利用者数が年々増加している。山城圏域では、ボランティアの固定化、高齢化、人員不足により、今後、配達できなくなる可能性がある。対策について考えは。</p> <p>⇒配食サービスの希望者は今後も増加する見込みで、ボランティアの担い手不足も認識し懸念している。今後どのように確保していくか検討する。</p> <p>○社会福祉協議会も配食サービスを重要視している。調理ボランティアも高齢化しているが、市や社会福祉協議会の広報等の啓発により、若いボランティアの方も徐々に増えてきている。配達ボランティアの不足は社会福祉協議会も課題と捉えているので、一緒に考えていきたい。</p> <p>○資料 2 P.1 基本目標 1 (1) ①介護予防事業の推進</p> <p>山城総合医療センターに併設する老健やましろでは通所リハビリを実施していて、リハビリにより要介護から要支援になる方がいる。老健は要介護者を対象としたいが、要支援者に対する介護予防の継続支援先として、介護予防事業の内容・キャパシティ等はいかがか。</p> <p>⇒一般介護予防事業は、全ての 65 歳以上の方を対象とし、要支援より軽度者や元気な方が自身で通う場所である。</p> <p>市も介護予防を重要視しているが、今期計画では不十分なところがあり、次期計画では予防事業の充実について検討したい。</p> <p>必要なサービスを利用いただき、保険料負担を現状維持とするには、重度化防止・予防対策が必要である。今後どのような介護予防事業が効果的か、委員の皆様と検討していきたい。</p> <p>○認知症状のある方が要支援となるケースが多く、要支援者が要介護にならないために、フレイル予防においてメカニカルなトレーニングが一番のポイントだと考える。本市にはデイサービスや認知デイはあるが、メカニカルなトレーニングを行える場所が非常に少ない。</p> <p>ジムの誘致等は難しいと思うが、近隣市町村には施設があることから、行政やケアマネジャーから、近隣施設の情報提供が必要ではないか。</p> <p>⇒高齢者に限らず成人の健康増進の取組として、若い時からの健康増進、体力保持、フレイル予防の習慣作りが重要である。市の健康増進計画である「健康日本 21 (すこやか木津川 21 プラン)」は R7 年度が見直しの時期だが、後期高齢者等を含む成人の健康増進の施策を示せていない状況であり、介護保険事業・健康増進事業ともに、フレイル予防等を位置づけていきたい。</p> <p>また、近隣施設の啓発・周知は、情報を持ち合わせていないため即時の対応は難しいが、フレイル予防について必要なことを広報に努めていく。</p>
--	--

	<p>○近所では、10～20 年前と比べて、高齢者の一人暮らしや夫婦二人暮らし、老々介護の方が増え、周囲も介護の大変さを察している。</p> <p>当事者は、機能低下や免許返納等から、介護申請のしづらさや誰かに助けを求めることの困難さがあり、周囲は、近隣住民への声掛けや第三者の関わり合いがしづらくなっていると感じる。</p> <p>先ほどの配食サービスも安否確認の意図もあると思う。</p> <p>行政か包括か、第三者の関わりは重要で、次期計画ではセーフティーネット等について反映することが大事と考える。</p> <p>⇒地域との関わりが希薄化し、声掛けや安否確認がしづらい社会となっている。市は社会福祉協議会と協力して「地域支え合い会議」を実施し、圏域ごとに地域の課題把握や関わり方について取り組んでいる。</p> <p>何らかの異変について市や包括支援センターに一報が入れば、職員が訪問し安否確認を行い、必要に応じてサービスに繋げ、民生児童委員に相談があれば、随時対応している状況である。</p> <p>行政だけで高齢者を支えるのは難しい時代となっているため、市民の方、関係団体等と協力して支えていきたい。</p> <p>7 その他 会議結果要旨のとおり。</p> <p>8 閉会</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>
その他特記事項	なし